

国語科（書くこと）における授業づくりのポイント

1 国語科（書くこと）における主眼について

国語科の主眼は、二つの観点から書きます。一つは、内容【思考力、判断力、表現力等】です。二つは、その内容を捉えるための見方や思考方法、活動【言語活動】を書きます。

○主眼の作り方の例

- 主眼 1 ～が、～するために（目的）、～（構成や記述などを具体的に）することができるようにする。
 2 ～（観点など）を明らかにするために、～して～について話し合うことができるようにする。

【第6学年単元「構成を考えて、提案する文章を書こう」の主眼1の例】

（1）高学年「書くこと」の系統を確かめる

5年生1学期	5年生1学期	5年生2学期	5年生2学期	5年生3学期
俳句	報告する文章	資料を用いた文章	意見文	創作文
6年生1学期	6年生1学期	6年生2学期	6年生2学期	6年生3学期
短歌	提案する文章	解説する文章	推薦する文章	自由作文

提案する文章は6年生で初めて取り扱うもので、提案する文章で大切なことは読み手を説得するということである。この視点で学習指導要領解説を見て、内容を焦点化していくようにする。

（2）学習指導要領解説から内容を焦点化する

①「B書くこと イ」（学習指導要領解説 139 ページより抜粋）

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

② 筋道の通った文章とは（学習指導要領解説 141 ページより抜粋）

相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう、論の進め方に注意して組み立てた文章のことである。筋道の通った文章にするためには、～中略～例えば「考えと理由や事例」、「原因と結果」、「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが大切である。

【焦点化】

筋道の通った文章となるように、伝えたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう、論の進め方に注意して、「考えと理由や事例」、「原因と結果」の関係がつながるようにして筋道を整えていくことができるようにする。

（3）教材や単元に合わせて内容を具体化する

①文種の特徴を明確にする。

→提案内容と提案理由につながりをもたせて、相手を納得させる必要がある。

②提案する文章の内容（事実と意見）を具体化する。

事実→「自分の体験」「調べて分かったこと」（原因）「現状」（結果）

意見→「自分の提案」（原因）「提案することの効果」（結果）

【具体化】

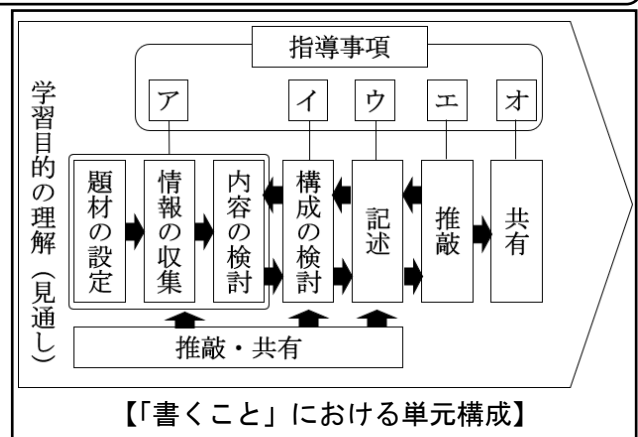
相手に伝えたいことが伝わる提案するために、体験、調べたこと、現状というきっかけと提案の内容を、考えと理由や事例、原因と結果の関係がつながるように配列して、文章の筋道を整えることができるようにする。

2 国語科「書くこと」における単元指導計画について

国語科「書くこと」では、単元を通して「言葉による見方・考え方」を働かせながら、自分が伝えたいことが読み手に伝わるように、文章をつくりあげていくことを大切にします。

国語科「書くこと」の単元指導計画では、まず、文章を書く目的（対象）を意識することが必要です。目的達成のために、情報収集、内容の検討、構成、記述、推敲を行い、共有していきます。この過程を大切に、必要に応じて見直したり、再度情報を集めたりして学習を進めていくことが大切です。

文章をつくりあげていく学習過程の中で、自分が伝えたいことと取り上げている事例のつながりを確かめながら書き進めることで、読み手が納得し、自分の考えが伝わる文章になります。



3 国語科「書くこと」における一単位時間の学習過程について

国語科「書くこと」の学習過程では、子供が課題意識をもち、既習を基に見直しをもって考えをつくり、話し合いを通して自分の考えを見直していく問題解決的な学習過程を大切にします。

○一単位時間の学習過程




階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>・これまでの学習では〇〇について学んだ。 ・これまでの学習で大切だったことは△△だった。 ・今回は□□について考えていきたい。</p> <p>(本時のめあて) □□について話し合おう。</p>	<p>○本時のめあてをもつことができるように、保存しているこれまでの学習履歴を基に、既習と本時の学習の共通点や差異点について話し合う場を設定する。</p>
展開	<p>2 モデルを基に、自分の考えをつくり、他者の考えと比較してよりよい考えにつくり変える。</p> <p>(1) モデルを比較し、自分の考えをつくる。</p> <p>モデルA ———— ———— モデルB</p> <p>・モデルAとBを比べると・・・ ・Aには～というよさがあるから・・・</p> <p>(2) 自他の考えを比較し、考えをつくり変える。</p> <p>Aさんの考え Bさんの考え Cさんの考え</p> <p>・自分の考えに友達の考えを付け加えよう。 ・自分の考えよりも友達の考えの方がよさそう。 ・友達の考えと比べると自分の考えの方がよいな。</p>	<p>○自分の考えをつくることができるように、〇〇なモデルAと△△なモデルBを提示して、比較する場を設定する。</p> <p>○よりよい考えをつくることができるように、学習者用端末でそれぞれが考えたことを共有し、共通点や差異点の観点で比較する場を設定する。</p>
終末	<p>3 本時学習を振り返り、本時のめあてに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>□□について、友達と考えを比べたことでよりよい考えをつくることができた。</p> <p>(本時のまとめ) □□は、～するとよい。</p>	<p>○自分の考えをまとめることができるように、自他の考えを共有し、よさを伝え合う場を設定する。</p>

4 国語科「書くこと」における ICT の活用について

国語科では、「自他の考え」、「モデル」、「これまで学んだこと」、「板書」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の四つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…前時までの板書や情報を見返し、自分の考えをつくるようにする。
- 提示機能…モデルや自他の表現物を基に、共通点や差異点を見いだすことができるようにする。
- 共有機能…友達の考えや表現物から、よりよいものを取り入れることができるようにする。
- 編集機能…文書作成ソフトを用いて表現を推敲し、即時つくり変えることができるようにする。

○ICT の活用の具体例

保存機能	提示機能	共有機能	編集機能
<p>導入段階で前時の板書を見返すことで、本時のめあてをもつことができるようにする。</p> 	<p>導入段階で提示されたモデルから、学習の見直しをもつことができるようにする。</p> 	<p>展開段階で自他の考えを比較し、考えを付加・修正・強化できるようにする。</p> 	<p>展開段階で表現した考えを、書き換えることができるようにする。</p> 